

◇ 8月の天文暦 ◇

日時	記	事
4 13	海王星	留
6 12		朔
6 15	金星	留
7 <sup>d</sup> ~15 <sup>d</sup>	ペルセウス座γ	の流星群
8 15	立秋	(太陽黄経 135°)
9 4	木星	合
12 8	火星	月の 0°4' 南通過
13 6		上弦
20 11		望
23 20	土星	月の 1° 南通過
24 5	処暑	(太陽黄経 150°)
25 1	水星	外合
28 15		下弦
30 7	金星	内合

惑星めぐり(7) — 月は生きている？

月に火山現象が観測された記録は400以上にも達しており、特に、最近では月の観測者が多くなったので、その数も急増しつつある。ミドレハーストは16世紀からの記録を整理しているが、それによると、アリストアルコスに火山現象が見られた回数が最も多く92回、次にブラトーで28回、以下シュレイター谷15回、アルホンス13回、危ノ海11回、…となっている。火山現象は“海”の周辺や、“海”と同じタイプの火口原をもつクレーターに多く見られており、ジャンセン付近の南西大陸では全く見つかっていない。“海”及びその周辺は比較的観測しやすいという条件はあるが、地球の場合と同様に、火山は異なった地殻が接している構造線に多く現われるためであろう。写真に記入した白丸印は火山

東京における日出入および南中(中央標準時)

8月	夜明	日出	方位	南中	高度	日入	日暮
日	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分
1	4 11	4 48	+23.4	11 47	73.0	18 46	19 23
11	4 21	4 56	+20.0	11 46	70.0	18 36	19 11
21	4 29	5 4	+16.2	11 44	66.6	18 25	18 58
31	4 38	5 11	+11.5	11 42	63.2	18 11	18 45



現象が見られた主な場所である。

火山現象が観測された時の月と地球との位置関係を調べてみると、月が近地点か遠地点付近にある時にその頻度が高くなっている。その他の時にも現われているが、その数は上記の場合の半数以下である。

月には火山活動が行われる程十分なエネルギーが保存されているか否かは興味深い問題である。月には核がないか又はあるとしても極く小さいといわれているから、月全体が地球のマントルとほぼ同じ物質即ちコンドライトからできていると仮定して、その中に含まれている放射性元素の量から、月の内部温度を計算してみると、対流により熱が運ばれないとした場合には、中心部では1800°C以上にも達し、今後も増加する傾向にある。地球上の大部分の岩石が一気圧のもとでは100°C前後で溶ける事を考慮すれば、月の内部には火山活動に必要なエネルギーは十分に蓄えられているといえよう(T.A.) (訂正—5月号天象欄の火星写真は「上が南」です)。

各地の日出入補正值(東京の値に加える)

(左側は日出、右側は日入に対する値)

分	分	分	分	分	分
鹿兒島 +41	+32	鳥取 +20	+24	仙台 -10	0
福岡 +38	+36	大阪 +16	+17	青森 -15	+6
広島 +30	+29	名古屋 +10	+17	札幌 -23	+8
高知 +26	+24	新潟 -3	+8	根室 -40	-9

◇ 8月の日月惑星運行図 ◇

